

ある地域の人權啓発研修で干支えとに関わる丙午ひひ迷信の話をした時、一人の方が手を挙げて「私は、産婦人科の先生から『年が明ける前に出産しましょう』と言われ、悩んだ末に予定日より早く12月に出産しました。それは、年が明けると丙午生まれになるからでした」と話してくださいました。以前にも、丙午迷信に惑わされ、子どもの出産を諦めた話を聞いたことがあります。

丙午は、60種類ある干支の一つで、丙午の「丙」は「火の兄」という意味があり、「午」は十二支の午で火の性質を持つとされています。干支が生まれた中国では、丙午は非常に勢いのある干支と考えられ、その年には天災が多いと言われていました。この話が日本に伝わると「火事が多い」に変化

し、その文字の持ついわれなどからいつしか「丙午生まれの女性は夫を不幸にする」という迷信になりました。人々は丙午の出生を避け、差別視し、そうしてこの迷信は語り継がれてきました。

このことは、当時の出生数からうかがえます。近年の丙午は、明治期と昭和期にありました。どちらの年も前年より出生数が減少し、次の年には増加しています。不思議なことに、明治期に比べ、教育や科学が発達し非合理的な迷信に惑わされることのないはずの昭和期の方が、減少率が大きかったです（明治期は約10%、昭和期は27%減少…「差別と迷信」住本健次・板倉聖宣著より）。

私たちの心には「知らなければ何ともないが、知ってしまうと何か落ち着かない」という心理が働き、避

ける行動に出ることがあります。非合理的な迷信に惑わされないためにも、曖昧なものに振り回されず、自分の意見をしっかりと持つことが大切ではないでしょうか。

